

▼いよいよ玉山登山口へ

昼食後、康橋ホテルに戻り、しばらくすると登山ガイドの小綿羊さんがワゴン車でやってきた。車はフォルクスワーゲンだ。小綿羊さんは57歳、それほど背が高いわけではないが、筋肉質でガッシリと引き締まった体だ。これまでに80回も玉山に登っているという。

ホテルを出発して1時間、高速道路を走って、嘉義の町で休憩。民俗文化館を見学した。嘉義は戦前の高校野球の映画「KANO」の舞台になった地域だ。1931年の夏、台湾代表で中等野球大会に出場した嘉義農林学校は初出場で何と決勝戦まで快進撃を続けた。中京商業との決勝戦は惜しくも敗れたが、この活躍は台湾全土に歓喜をもたらした。資料館の人にこの話をすると、やはりよく知っていた。この当時の嘉義農林の選手たちの雄姿は台湾の20元紙幣の図柄にもなっているほどだ。

さらに山岳道路を阿里山に向かう。途中にあったセブンイレブンで、2日間の昼食の食料を買い込む。午後5時30分、「山葵屋（わさびや）」民宿に着いた。台湾の観光地には、日本と同じように「民宿」が結構多い。もちろんホテルよりも安い。夕食後、リビングにあったカラオケ設備で、「♪青い山脈」「♪大阪ラブソディ」、テレサ・テンの歌などをみんなで歌い大いに盛りあがった。部屋はきれいで日本のペンションのようだ。ダブルベッドがふたつ。幸い、寝具が4人分あったので、男性はダブルベッド、女性は床で寝た。僕が一番寝つきが早かったようで、一頻り話した後、「寝ます」と言ってから1分と経たないうちにイビキが響いたという。快適なベッドで熟睡した。ちなみに寝た順番は①西岡、②浪花、③岩本、④高橋とのこと。最後に寝た高橋さんの証言だ。

▼さあ目指すは玉山山頂だ

翌日、4月24日は5:00起床、朝食後5:50に民宿を出発した。阿里山の山岳道路を奥深く入っていく。石山集落を抜けて、7:40に「東埔山荘」の表示がされた登山口の駐車場に着いた。登山の準備

をする。続々とバスやマイカーで駐車場がいっぱいになった。8:10、駐車場の向かい側にある舗装道の急坂を200mほど登る。警察署があった。ガイドが登山届を提出。続いてその隣に管理センターの建物。パスポートのチェックを受ける。屋内は玉山のビジターセンターになっている。日本語版の玉山案内地図もあった。手続きを済ませて、管理センターの送迎ワゴン車に乗り込む。7人ずつ次々と登山者を乗せて車が出ていく。10分ほど林道を走ると塔塔加（ととか）登山口に着いた。「玉山登山口」と刻まれた大きな石碑が立っていた。塔塔加は見晴らしのいい峠で、すでに標高は2610mだ。北アルプスでいえば蝶ヶ岳の山頂あたりか。

天気も上々だ。気分もいい。4人とも元気だ。8:50に歩き始めた。先頭はガイド。我々よりも相当重いザックを背負ったガイドだが、その足の運びはテンポよくしっかりと大地を踏みしめて歩く。あとに続く4人は、高橋、岩本、浪花、西岡の順だ。ガイドは後ろの4人のことなどあまり気にかけていないようだ。30分歩いて小休止。つぎの30分歩くと「モンロー亭」。2838mだ。東屋があり、50m先にトイレがある。このあたりは山の斜面が断崖になっていて、アメリカ人のモンロー氏がこの地の調査・探検にやってきたときに、足を滑らせて滑落死されたという。その名の由縁である。10:55玉山前峰分岐点。10数人のグループがいた。話しをするとアルパインツアーの一行だという。



玉山頂上からのご来光（浪花芳法氏撮影）



登頂記念写真（筆者は右から二人目）

ちなみにツアー料金を聞くと 24 万円とのこと。11:30 岩場がある地点で昼食休憩。シャクナゲの下で、カップラーメン、玉子、パン、バナナを食べる。山頂から下ってくる人たちとつぎつぎと交差する。樹林帯の樹木は台湾スギという。

午後は 12:50 白木林休憩所の東屋で小休止。東屋の手前にトイレあり。13:10 見上げると目がくらむような大障壁を通過。しばらくして岩本さんが「足がつる」と声をあげた。大したことはないようだ。なだらかな登山道が急斜面になった。拝雲山荘手前の難所だ。30 分ぐらい急斜面をあえぎながら登り、最後の 200 段の階段を登りきると小屋に着いた。小屋は標高 3402m。槍ヶ岳を超えた。時間は午後 4 時前だ。数年前に建て替えられた小屋は 2 階建て、茶色の外壁が小ざれいでシンプル。テラスもある。寝室は 8 室で寝床はカイコ棚の二段式だ。収容人員は 92 人。そのうち外国人枠は 24 人。5 人以下の外国人グループは 1 人の台湾人ガイドを付けなければいけない。

夕食は豚肉にスープ、野菜、ごはん。明日は夜中に出発するので、夕食後、早々に寝袋に入った。4 月 25 日、午前 1 時 30 分起床。しかし、ガイドは起きてこない。2 時に朝食。饅頭（まんとう）、ミルクティー、おかゆ。ようやくガイドも起きてきた。昨夜は星空だったが、今、外はガスがかかっている。寝袋をたたむのが

結構手間取った。袋と一体型は力がある。

準備が整ったグループから順次小屋を出発していく。2:50、準備ができたガイドを先頭に僕らも出発した。小屋の間を通り抜け、木橋を渡ると登山道が伸びている。100 人近い登山者が、グループごとにほぼ一列になって、数珠つなぎで暗闇の中をヘッドランプで足元を照らして歩く。先頭から光の帯が連なっていた。適当な間隔で「小屋まで〇キロ／山頂まで〇キロ」の道標が立っている。緩やかだった道が、岩場とガレ場の登山道に変わっていく。小休止を繰り返すたびに抜きつ抜かれつの様相だ。ガスも次第に消えていった。暗かった周りが次第に明るくなっていき、ヘッドランプの灯が消えてゆく。夜明けが近い。「風口」という半ばトンネルのような場所を抜ける。風の強い場所という意味らしい。ガレ場、クサリ、階段が続く。北アルプスの槍・穂高のようだ。最後の急登 30 分を上り詰めて、5:20 に玉山主峰の最高所 3952m を踏んだ。体に高山病らしき兆候はない。先行の登山者で山頂はいっぱいだ。丁度、日の出の時間。雲の間から陽が昇った。

玉山主峰の石碑の前で、順番に写真を撮る。ぼくは持参した鯉のぼりを手に写真に納まった。

ドローンを組み立てて、飛ばしている登山者もいた。カメラが付いているのだろう。山頂にはゆっくりと小一時間ぐらいいて、6:20 に下山開始。慎重に下る。約 1 時間 30 分で拝雲山荘に戻ってきた。

▼登頂の感動と余韻を胸に下山

小屋で小休止のあと、8 時 30 分に小屋を後にした。もう気分はルンルンだ。あとは下るだけ。ガイドのピッチはなぜか速い。小屋から登山口までは 7.5 キロ。ほぼ 0.5 キロごとに標識があるが、0.5 キロを 15 分のペースで歩き通した。先行していたグループも小休止中に次々と追い抜き、途中で昼食タイムが入る予定だったが、それも飛ばしてひたすら歩き、登山口には 12 時 10 分に着いた。うまい具合に送



登頂記念写真（筆者は右から二人目）

迎のワゴン車が間髪いれずやってきたので、そのまま乗り込み、ガイドのワゴン車がある駐車場まで一気に運んでくれた。

そのままガイドのワゴン車で登山口を後にして、一気に下界へと下って行った。午後2時ごろ、嘉義の町に着き、ガイドのなじみの飲食店に入った。ガイドは初めから昼食の場所を下山途中ではなく、この店で決めていたようだ。そのために一気に下山したのだ。

玉山登頂の打ち上げだ。空いたお腹にガツガツ食べた。さらに、台南市郊外のマンゴー店に寄ってきてくれてマンゴーアイスもご馳走してくれた。夕刻午後5時、無事に康橋ホテルに帰還した。ガイドさんありがとう。

台湾は実は山国だ。太平洋側は3000mを超える山々が何と200以上も連なっている巨大な壁である。玉山の魅力を言うとするば「登山道や山小屋が混雑しないこと」「登山道やコースが明瞭なこと」が挙げられる。玉山は拝雲山荘の宿泊者上限(92名/1日)以外は入山を認めないので、日本の夏山はじめ、連休の山の混雑振りに辟易してしまった方には最高の山だ。さらに食事や寝具を持っていく必要がないのでザックも重たくない。コースが整備されていてまったく道迷いによる遭難の心配がないので安心だ。

▼台南から花蓮へ向かう

4月26日(金)、昨夜の打ち合わせで今後のツアー旅程を相談した結果、早朝の台湾鉄道に乗ることが一番となった。康橋ホテル、5:00起床、5:50タクシーで台南駅へ出発(85元は安い。約350円)、早すぎたおかげでホテルの朝食が食べられず。そ

れが残念。台南駅を6:30発の台湾鉄道に乗車。台湾の南から東へ向けて太平洋側を走る。台東の穀倉地帯、海岸沿いを走る。車窓の景色は日本の北陸を走っているみたい。11:49に花蓮駅に到着。花蓮は今年の4月中旬に地震のあったところだが、町なかはそんな感じは全くなく、大きな影響はないようだった。

駅前には観光タクシーの客引きの人がいっぱいいた。そんな一人、女性運転手の郭雪風さん(タクシー)に乗車した。夫の片桐秀明さんは日本人で民宿も経営。「地球の歩き方」に民宿の広告が掲載されている。(750元+オプション100元)。12:30、台湾有数の観光地「太魯閣(タロコ)渓谷」入り口の手前の食堂で昼食(まともな焼飯とスープ)。昼食後、最初の場所は「清水断崖(恋人たちの聖地?)」。切り立った断崖に立ち、海から岩に打ち寄せる波を見る。日本でいえば能登金剛か。太魯閣渓谷入り口に戻り、渓谷の入り口から慈母橋(大理石でできた橋、欄干には小さな獅子像がいっぱい並んでいる)を渡り、遊歩道の「緑水歩道」(全長2キロ往復1時間の渓谷散策コース)を歩く。燕子口(燕の巣が岸壁に穴のように点在)、鍾麗大断崖(断崖の岸壁が長く続く、空を見上げると岸壁で切り取られた青い空が台湾の地図のように見える)、長春祠(渓谷に道路を開削した工事で犠牲になった人たちを慰霊する)などを観光する。

帰路、運転手のなじみのお茶販売所でお茶をご馳走になる。18:00今日の宿舎、亜土都(アスター)ホテルに到着。海がすぐ近くの眺めがいいホテルだ。夕食は名物のワンタンスープを食べに行こうとまとまった。タクシーで有名店に行くと看板は「偏食の店」とある。ワンタンスープが偏食なのか?よくわからん。市内の夜市の散策へ。セブンイレブンで夕食とビールを買い込んで店の前で食べる。台湾にこれほどセブンイレブンが進出しているとは驚きだ。南国・台湾の夜が静かに更けてゆく。(続く)



花蓮の太魯閣渓谷(左端が筆者)